



日本サーバス本部会報特集号 日独サーバス交流ツアー

2020. 2 日本サーバス会長 日独サーバス交流ツアー代表

コロナウィルスが気になる毎日ですが、皆様には如何お過ごしでしょうか。一日も早くコロナウィルスが収束に向かう事を願うばかりです。

昨年、日本サーバス前会長のお世話によって実現した「日独サーバス交流ツアー」の報告が送られてきましたので、本部会報の特集号として皆様にお届けします。

どうぞお読み下さり、サーバス活動の楽しさを心に満たして下さい。そして、皆でいろんな形でサーバス活動を楽しんでいけたら嬉しいです。

日本サーバス会長

日独サーバス交流ツアー報告 九州支部 O.T

2019年11月末から12月初旬にかけて日本サーバス会員9名とトラベラー会員1名の計10名が参加してドイツツアーが実施されました。この企画はドイツサーバスからの呼びかけによって実現したものでドイツ各地のクリスマスマーケットを巡りながらドイツサーバス会員との交流を図ることが目的でした。今回のツアーは全国の日本サーバス一般会員が参加した本格的な国際交流イベントとしては久しぶりの試みであり、それを成功裏に終えたことは大きな意義があると思います。ここに今回のツアーの準備作業、実施概要、交流の記録をまとめて皆さんに報告致します。今後、今回のような交流イベントが実施される時の参考になれば幸いです。

当報告書は大きく三部に分かれます。

まず第一部で当ツアーの概要をまとめました。

第二部では今回の訪問地ごとの滞在記録をそれぞれの担当者にまとめていただきました。ここではグループ行動の様子が中心になります。

第三部では各参加者の体験談を主にステイホストとの交流を中心に書いて貰っています。

第二～第三部では参加者個人ごとの様々な受け取り方を尊重するために極力、原文のまま掲載しています。その結果、文体の不統一と一部内容の重複がある点をご容赦下さい。

I. 日独交流ツアー2019の概要(九州支部 O.T)

●事前準備とドイツサーバスとのやりとり

- ・2018年10月、国際会議(ソウル)出席目的で訪日されたドイツサーバス会長の Co さんが、Ot 宅にステイされた際に日独交流の話が持ち上がる。
- ・2019年5月、Co さんよりドイツツアーの実施案がメールで届く。
- ・その時点での提案内容はドイツ滞在日程を11月29日～12月9日、参加人員は6～10名。場所は未定だがドイツ国内3～4カ所のドイツサーバス宅にステイしながらクリスマスマーケットを巡るというもの。
- ・日本サーバス会長と相談の上、各支部長を通じて参加希望者を募り6名以上の参加者がいれば実行するこ

とに決定(5月17日にOt名で各支部長に募集メールを発信)

・即日、6名からの参加申し込みを受けて決行をCoさんに連絡。

・6月1日。ドイツ入出国は共にフランクフルトとして各自航空券の手配を進めることを参加者に連絡。ドイツからは訪問地を概ねルール地方、ライプチヒ、ハンブルク、フランクフルトとして準備を進めるとの連絡を受ける。

・6月7日 ドイツ各地区の受け入れ責任者が決まる。

・6月13日 フランクフルトの責任者の提案を受けて現地集合地を市内のホテルに決めオンラインで予約。

・10月1日 ルール地方のステイホストが決まる。

・参加者全員のLOIを各地域の責任者に送付する。

・10月16日 ライプチヒでの滞在日程が決まる。この時点でドイツ国内での移動経路が決定したので鉄道路線経路の検索を始める。

・11月2日 ドイツ国内移動列車の団体チケットを購入(Ot)

・11月4日 ライプチヒのステイホストが決まる。

・11月15日 参加者の担当割(訪問地の事前学習・パーティ時の出し物企画、スピーチ担当等)を決める。

・11月17日 フランクフルトのステイホストが決まる。

・11月23日 ハンブルクのステイホストが決まる。

・11月26日 行程ガイド「ドイツ旅行のしおり」を緒方が作成し参加者に配布。



ドイツサーバス National Secretary の Co さん。現職の高校教師として多忙な日々を送りながらサーバス活動も熱心

●ツアー参加者

関東支部……Ts, Km&Kh 夫妻

東海北陸支部…Kn、Hs

近畿支部……Ss

九州支部……Ty Tf Ot

トラベラー会員…Ym(Tsさんの義妹)

以上、10名

●ツアー行程

月日	グループ行動 【】は列車番号	宿泊地
11月29日(金)	現地集合(ホテル「The Frankfurt」)	Frankfurt
11月30日(土)	【ICE728】Frankfurt.Hbf 10:10→Duisburg.Hbf 11:49→Essen.Hbf 12:02 →Bochum.Hbf 12:14 (三ヵ所に分散ステイ) 16:30にMuelhim water station前で集合～クリスマスマーケット見学後、終日貸し切りホールにて歓迎パーティ	Duisburg Essen Bochum
12月1日(日)	15:45 聖ジョージ教会(Hattingen)に集合～クリスマスコンサート 19:00 レストランで夕食会	同上
12月2日(月)	【ICE847】Duisburg.Hbf 10:10→Hannover.Hbf 12:28(乗り換え) 【ICE2441】Hannover.Hbf 12:37→Leipzig.Hbf 15:15 ・ニコライ教会で平和の祈り ・17:45～クリスマスマーケットで軽食	Leipzig

12月3日 (火)	市内観光～13：00 パッハミュージアム後に自由行動 18：30 夕食会 (Restaurant Telegraph)	同上
12月4日 (水)	【ICE602】 Leipzig.Hbf10:16→Hamburg Dammtor13：32 各自、ホストとクリスマスマーケット見学後にホスト宅へ	Hamburg
12月5日 (木)	10時美術工芸博物館前集合～市内ツアー～昼食～自由行動 ～17時 Lerchenstrabe10 でポトラックパーティ	同上
12月6日 (金)	10時地下鉄U3のハーエルフトブリュッケ駅集合→イーゼマルクト見学～ 昼食～14時遊覧船でハンブルグ港巡り、その後自由行動 (希望者) 21時ザンクトパウリ駅に集合して移動遊園地と花火を見学	同上
12月7日 (土)	【ICE75】 Hamburg Dammtor 9:54→ Frankfurt.Hbf 14：00 各自、ホスト宅へ	Frankfurt
12月8日 (日)	(希望者) フランクフルトの市内観光	同上
12月9日 (月)	14時発便で帰国の4名は直接空港へ その他の6名はホストのDさん宅でクリスマスクッキー作りの実習後に空港へ	



II. 滞在記録

① ルール地方(11月30日～12月2日) 記; 関東支部 Kh

旅の初日は、フランクフルトからICUで約2時間のルール地方から始まった。この地域は、かつては炭鉱、鉄鋼産業で栄えたがエネルギーが電気、ガスに移り変わった現在では芸術、文化の町として生まれ変わろうとしている。

前夜、フランクフルトのホテルで初顔合わせをした我ら10名のサーバスー一行を乗せたICUは順調に走り、Duisburgを目指す。あと15分だ。次の駅まで行く2人を除き、黒一点の我が夫、Kmを含む8人がプラットホームに降り立った。

が、何かおかしい。列車が予定より早く着き、しかも迎えてくれるはずのドイツサーバスの姿が見当たらない。何てことだ。私達は1ストップ前で列車を降りてしまったのだ。

さあ、そこからが強者ぞろいのサーバスメンバーだ。電話をかける者、近くの人に状況をたずねる者、みんなで力を合わせ、この難局を乗り切り、ここでの協力が私達の団結を一層、強くし無事、目的駅でHe率いるルール地方のサーバスメンバーの熱烈な歓迎を受けることができた。

※反省

ドイツ語の表記は難しい。Duisburg、Dusseldorf 最後まで読むこと！

初日は各自、ホストファミリーのお宅で荷物を降ろした後、早速、本場のクリスマスマーケットに案内された。

この地のクリスマスマーケットは商業化されたものとは異なり、全てチャリティで地元の人達の手によって運営されている。サーバスのメンバーも誇らしげにそのことを説明してくれた。

ドイツの夕暮れは早い。日が傾くにつれて、グルーワインやシチュー、おいしそうなソーセージの香りがただよい始め、続々と人々が集まってくる。私達、小人の国の訪問者は背の高いドイツ人の中に、すっぽり埋もれてしまいそう。迷子にならないようにホストに必死についていく。

今夜の夕食はここでの軽食で、その後、サーバスメンバーとの和やかな懇談会が用意されていた。手作りのクッキーをはさみ、全員があふれんばかりの笑顔で歓待してくれ、あちこちで話の輪が広がっていく。

翌日は各自、サーバスホストと過ごしたり、希望の場所へ訪れたのち、再び全員でセント・ジョージ教会に集合。教会の主任音楽担当でありサーバスメンバーでもあるMa Chとその仲間の素敵なクリスマスコンサートに酔いしれる。

コンサート後はマルクト広場に移動し、市庁舎の壁一面に飾られた巨大なアドベントカレンダーのオープニン

グイベントを見学する。夕方5時というのに真っ暗で、この地に伝わるちょっと怖いおとぎ話を人形劇に併せて聞く。この広場も人々の群れで立錫の余地もない。子供連れ、恋人同志、年老いたカップル。みんながとても幸せな表情を浮かべ、一緒にクリスマスのイベントを祝っている様子は平和そのものだ。

さて、この地の最後の締めくくりは、先ほどのMaが予約しておいてくれたレストランでの夕食会だ。リーダーのHeのスピーチにも熱



が入る。会員同士の強力な結びつきと私達を心からもてなしてくれる満面の笑顔に感謝し、ルール地方の夜は更けていった。

<感想>

ドイツの人はよく笑い、よく食い、よく飲む。私達夫婦と Ts さん、Ym さんの 2 組を受け入れてくれた Cl He 夫妻に心から感謝します。

② ライプチヒ(12 月 2 日～4 日)

記;東海北陸支部 Hs

12 月 2 日(月)

私達一行はヨーロッパで最大級と言われるライプチヒ中央駅に着いた。駅の通路は沢山の美しく大きな円筒形のシャンデリアで飾られていた。ホストの出迎えを受けたのち、長旅を癒すため 30 分程の cafe タイムを取っていただいた。

16:00 ライプチヒの SERVAS メンバーと市内見学に出掛ける。この地区のコーディネーター Be さんの案内で彼女の職場、ライプチヒ大学の中を案内してもらう。外壁がモザイク状の素材(ガラスか?)で覆われた現代建築の美しい建物だ。この大学の設立は 1409 年、610 年の歴史がある。ここで学んだ著名人には、ゲーテ、ニーチェ、森鷗外、メルケル首相などがいる。

17:00 ニコライ教会へ。パイプオルガンの演奏で平和の祈りが始まる。この教会はプロテスタント系で信者のリーダーと思われる人々(服装は普通の服)が次々とドイツ語で祈りを読み上げる。これが延々と 18:10 まで続いた。

この後は各ホストごとに分かれて Xmas マーケットを廻る。私達のホスト Jo さんが「ベトナム料理店のフォーがある」と教えてくれたのでそこへ案内してもらおう。体に優しい麺料理が嬉しい。

19:30 中央駅で再び全員が集合し、荷物をピックアップして各ホスト宅に向かう。

12 月 3 日(火)

10:00～11:40 Be さんの教え子(20 代? 女性)にガイド付ツアー(英語)をしていただく。

コンサートホールのゲヴァントハウス(ゲヴァントハウス管弦楽団の本拠地)の中を見学。→ニコライ教会近くの広場:この場所には『9.10.1989』の記念の日が刻印されたプレートが埋め込まれていた。東ドイツの民主化を求めて人々がデモを決行した日だ。このデモがドイツ統一の第一歩となった。



11:40～12:50 までのランチタイムはフリータイムとなった。3 年前にも訪れた『Spizz』で美味しいカリフラワーのオランダールソース焼きをいただく。

12:50～14:00 全員集合してバッハミュージアムの見学。第一火曜日は入場料 Free の日であった。(日本語ガイドイングリシーバー付)

14:10 Be さんに夕食をとるレストランまで案内をもらう。

14:15 から 18:30 の夕食まではフリータイムとなる。

私はここで突然に単独行動になってしまった。しかし私は単独行動が好きなので特に問題はない。まず『i』観光案内所に行き Map をもらう。次に近くの郵便局に行き切手を購入。ここでは自販機で切手を買う術をマスタ

一。日本への絵葉書のエアメール代は€0.95。自販機で€1.00 を投入した場合、おつりは出ないで€0.95 と€0.05 の切手を取り出し口に落ちてきた。

この後は、「ライブチヒ現代史フォーラム」(1945 年以降のドイツ史の展示)と「ルンデ・エッケ」(東ドイツ国家公安局:秘密警察)を見学する。この年齢になっても、知らないことだらけの私である。ドイツ分断の歴史についても同様の私は、この見学とその後のネット検索で少しは理解が出来るようになった。昔見た記憶のあるドイツ映画「善き人のためのソナタ」(2006 年)は 1984 年の東ベルリンでの国家保安省(シュタージ)のエージェントを主人公にしたもので、当時の東ドイツが置かれていた監視社会の実態を克明に描いたものである。監視社会の怖さ、自由な言論や行動を求め、民主的な政権への市民の強い願いが沸点にまで高まり分断されていたドイツはこの後統一に向かった。

18:30 レストラン『Telegraph』にてライブチヒのホストと共に夕食。～20:00

20:40 ホストと共にホスト宅に戻る。

私は 2016 年 9 月に SERVAS 旅行でドイツを訪れた。

その時のホスト 2 家庭と、今回のホスト 4 家庭のおもてなしを受け、色々考えることがある。彼らの生活スタイル、習慣、食生活、インテリアなどには学ぶことが沢山ある。これらを自分の中で消化し自分の生活にも取り入れつつ豊かな生活を送りたいと思う。ドイツの皆さんありがとうございました。

③ ハンブルク(12 月 4 日～7 日)

記;関東支部 Ts

ドイツ最大の港町ハンブルクは北に位置していますが、内陸部のライブチヒより、やはり海風の影響でしょうか? 幾分暖かく感じられ、到着するや否や Co が出迎えてくれ、再会を喜びました。

Co の話で残っている言葉に、今回の広範囲にまたがる旅をオーガナイズするにあたり、reliable な人に私は皆頼みました。とキッパリと言っておられたのが印象的でした。

ハンブルグでは3泊させてもらい、其のうちの一日はポトラックパーティーが開かれると予定されていたので、ホストの Pe さんに車で近くのスーパーマーケットへ連れて行ってもらい、お買い物をしました。フルーツポンチを作る予定にしていたので、日本から持参した寒天の粉を使いゼリーと小豆のお手軽パックであずきを作り、あんみつ風のフルーツポンチを作りました。Pe さんに家の台所にあるガラスのうつわをお借りして、2鉢15人から20人分作りました。ハンブルグでお買い物するのもお台所をお借りして準備するのも初めてでしたので、とても新鮮な印象を受けました。車で市中心地まで行きポトラックパーティーの開かれるコミュニティーセンターまで送ってもらったので、二つの大きなうつわを持ち込むことが出来ました。Pe さんのドライブのお蔭で出来たことで感謝しています。



ハンブルガー・ドームで大花火大会が開かれるという事なので、ハンブルク美術館を見学した後、そちらのドームへ行きました。ホスト側が用意して下さったプログラムなので、夜10時半から始まる花火大会でしたが日本人4人が参加しました。ドイツ側の方々も二十数年前子供連れで来て以来になります。と話しておられ、一緒に観覧車に乗り夜の街並みを上部から臨みました。私達日本人側も移動式遊園地を体験するのも何年振りかでした。エキサイティングな夜でした。

次の日は2017年オープンのエルブフィルハーモニーのランドマークタワーを Ma さん達のガイドで見学、その後、ベジタリアン・レストランで昼食の何と美味しかった事か！忘れられません。そのレストランを紹介して下さいました Ka さんに感謝いたします。



Ka さんは 1962 年日本サーバスを起ち上げられた東京の Am さんをご存じでして初めて日本のあちこちをサーバス旅行で回られた話をしておられました。数年前日本サーバスは50周年記念誌を発行しました。今年で日本サーバスは創立 57 年になりますので、Per さんや Ka さんが長い会員歴の方々だと初めて分かりました。



ベジタリアンレストラン
の(マッシュルーム・ラン
チ)



【ハンブルクダムトア駅にて】

④ フランクフルト(12月7日～9日) 記; 関東支部 Km

フランクフルトまでの移動日は土曜日で ICE は満席。通路にまでスーツケースが溢れ我々の席にたどりつくのに一苦労。しかもそこには先客が座っていて我々の団体チケットを見せてやっと渋々という様子で席を立て貰

う。しかし彼らは大きな荷物まではどうかそうとしないので私達はスーツケースを椅子と足で挟んで窮屈なままの4時間だった。

例のスウェーデンのハイティーン女子の地球温暖化抗議活動以来、ヨーロッパでは「飛び恥」という言葉が流行り、圈内旅行時に飛行機利用を避ける傾向が強まり代わりに列車利用が増えているという。そのこと自体は時勢柄、当然なことと思うが増える旅行者に対して鉄道会社は何らかの対策を取っているとは見えない。以前は各車両にスーツケース置き場があったというが今は席数を増やすためかそれも撤去されている。もともと列車の乗り方として予約客が来るまでは空いている席に座っていて構わないというのがこちらの習慣のようだが、これも気の弱い日本人には困りものの習慣だ。これからは少し割高になっても一等席のコンパートメントを確保した方がいいのだろうか。

フランクフルト中央駅でこの地のまとめ役の Da さんと再会。Da さんはこのツアーの初日、わざわざフランクフルトのホテルまで明日のゴッホ展のチケットを持って来て下さっている。

今回はここで一旦、それぞれのホスト宅に分散宿泊する予定。フランクフルトは大都市だが金融中心の町で観光の目玉になるようなスポットは少ない。市内在住のサーバス会員数も人口の割に少ない。さぞかし、ステイホスト探しに苦勞したことだろうと推測する。どうしても宿泊先は広域に散らばることになった。

尚、私達夫婦は翌日の「ゴッホ展」見学を申し込まなかったこともあって翌々日の昼まで単独行動。従って以下の市内観光の様子は Ot さんからの聞き語りである。

午前中に7名が集まりシュテッデル美術館へ。日曜日ということもあって非常な混雑でゆっくり鑑賞することが出来なかったのは残念だが、展示の仕方に工夫が凝らされていたとのこと。スマホにアプリをダウンロードすると展示品についての解説を聞くことができ、しかもそれが帰国後も何度も再生できたそう。

美術展鑑賞後は現地のホストも加わって近くのカフェで昼食会。その後は、オールドタウンを散策して自由解散。

最終日は出発便が2時前の4人を除く6人が Da さん宅に集合。ここで Da さん主導によるクリスマスクッキー作りを体験。

Da さんは材料だけでなくレシピまで皆に準備する気配りだった。

我々二人もホストファミリーの Le が運転する車で合流。妻も Le と共にクリスマスクッキー作りに励むがこの場面では黒一点の出番はなし。ゆっくりソファで見学させて戴きました。

お土産用に焼き上がったクッキーをタッパーに詰め Da さんお手製のスープをお昼に戴いたらアッと言う間にドイツを去る時が訪れ、ワゴンタクシーに6人乗って空港へと向かいました。



Ⅲ. ドイツサーバスホストとの交流記

■ 関東支部 Ts

2度目のドイツ訪問でしたが、サーバス旅行のドイツは初めてで、訪問前からそれはワクワクしていました。最初の訪問地の Paさんは風をこじらせてお引受けできない。というメールが私達に入りましたが、そこはドイツサーバスです。代わりを Cl and He が名乗りを挙げて下さいました。すでに Kさんご夫妻がステイされる予定でしたが私達2人も加わり合計4人になってしまいました。

大きな広いお家でとても快適なお住まいで、中庭には緑の数々のプランターが育てられていました。ルール地方はドイツの北西部で商業と工業の中心地です。昔の炭鉱と鉄鋼の町から脱却して現在は環境保護意識の高いクリーンな町に変わっている、と Heさんが現代の街並みの変化を並々ならぬ熱心さで説明されるのを聞きました。折しもクリスマスマーケットが開かれていた時期でもあって、何時もは、この細い路地は通行止めですが、この期間だけオープンになっていますと裏道の案内もあり、またクリスマスマーケットで得られた収益金は町の発展に使われますと述べられるのも忘れないで話しておられました。

次の訪問地は、ライプチヒです。お名前と住所は分かっていたのですが、事前にメールのやり取りが無く、少々不安でしたが大丈夫だろうとライプチヒの駅に降り立ちました。案の定、駅では出迎えのサーバス会員が手際よく荷物を車に積み入れてくれて、手ぶらでライプチヒの町の夜のクリスマスマーケットをたのしむことが出来ました。

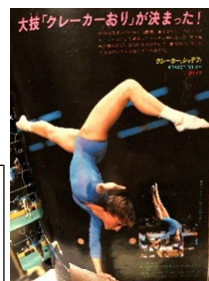
私達のホストの Stさんが道案内をしてくださいました。

自己紹介をしながら、私たちがドイツに入国してからの経過などを話しました。それから Stさんの家に到着して、お部屋に通されてはじめて気づいたのですが、彼女はなんと、1976年モントリオールオリンピックの体操団体総合で銅メダルを獲得した東ドイツの元オリンピック選手でした。この大会の女子個人総合で金メダルに輝いたのがあの有名なコマネチです。当時は金銀メダルを争う体操競技の選手だったとは一。思わぬ出会いにビックリしました。今でも潑刺とした体形でさすが、元オリンピック選手だった事が伺える容姿で、今はセラピストの仕事をしているそうです。

Steffiさん左とコマネチ右



モントリオール大会での
Steffiさんの演技→



来年は東京オリンピック・パラリンピックが開かれますので、是非日本訪問を実現してください。と伝え、次の街へ移動しました。

※(ハンブルクでの交流部分は前掲)

フランクフルトではホスト側が全員、駅まで出迎えてくださって、はじめて私達のホスト Maの顔を知りました。

事前にメールのやりとりは出来ていましたが、何しろ初めての巨大都市フランクフルト。西も東も分からない私でしたので、トラムの乗り方も分からず切符の買い方も分からず、右往左往するばかりでしたが、ホストに助けられて、無事、駅から少し離れたマンション群のある自宅へ辿り着けました。私の場合いつも、トラベラーとして訪問する時は、事前に LOI だけでなくメールのやり取りもして、お互いを知りあって、訪問する事にしています。今

回は私の送ったメールが何カ所か届けられない状態が続いていました。プロバイダーから「届けられませんでした」、と何回もアンデリバリーの通知を受けましたので、プロバイダーに尋ねると、「ドイツ側のセキュリティーが強くてはじかれているのだと思います」との回答でした。私は2つのメールアドレスとSOLを使って連絡をとろうとしましたが、願いが叶わないことがあることを体験しました。Maは元サーバス・フランクフルトのコーディネーターをしていたというCoご夫妻を夕食に招き、私達と一緒に食事をしました。Ssさんの日本から持参のシュトーレンも味わっていただきました。後で美味しかったです、とお礼のメールに写真も添えて頂きました。



持参したスモールプレゼント

ドイツ旅行ではお世話になったホストやサーバスメンバーに一行からささやかなプレゼントを用意しました。着物地で作った可愛い巾着袋です。中には参加者が持ち寄った日本のキャンディーを入れ、私たちのスイートハートを届けました。プレゼントされた皆さんは、手に取りその柄や風合いを楽しみ、大変喜んでくださいました。後々迄小物入れで楽しむと言ってくれた方もあり、良かったです。



一行は数々の思い出を携えて無事帰途に就きました。

サーバスの会員であることに感謝して、トラベラーを迎える際に今回の体験を生かしていけたら良いなと思っています。

■関東支部 Km

Duisburg Host; Cl & He Mi Date; Nov.30th(Sat)–Dec.2nd (Mon)



初日から大失敗。ドイツ駅名表記が難しいのは言い訳にもならないが一つ手前の駅で降りてしまい、慌ててClさんにOtさんが電話して次の列車に飛び乗り20分遅れで到着。それにも関わらず大勢の現地ホストに笑顔で迎えていただけたのにまず感激。

Tsさん/Ymさん組の予定ホストが体調不良ということで急遽、私達と一緒に四人でCl & He夫妻宅にご厄介になることに。それで四人分のスーツケースを運ぶため

にもう一人男性ホストがポーター役として車まで提供。当地の強固なネットワークを感じる。

He宅は三階建て。Tsさん達の部屋までは急な階段を登らなければいけないがこれもポーター役の男性が難なくクリア。あれよ、あれよ、の間に私が手を貸す暇もなく申し訳ない気分。

早速、ダイニングに集まりClさんお手製のパンプキンスープをご馳走になる。当地でかぼちゃのことをHokkaidoと呼ばれていることを初めて知る。Heさん曰く、ルール地方は、昔は炭鉱の町で空気も悪かったが炭鉱閉鎖後は徐々に観光客も増えているとのこと。外国の人が来るのが嬉しいのも地域の結束が強い理由かもしれない。

その後、トラムに乗って全員集合。ライン川沿いのクリスマスマーケットは全てチャリティとのこと。川面に映るイルミネーションが美しいので CI さんに川向こうの撮影スポットまで案内をお願いし戻ったのは集合時間ぎりぎり
で皆に冷やかされる。

翌日、午前中は He さんに車で送って貰って博物館へ。見学後、近くのレストランで昼食後、再び He さんが
迎えに来て帰宅。少し休んでトラムに乗って集合地点であるセントジョージ教会へ。ここではドイツ風シチューが
旨かった。

出発日の朝、今度は先日の男性の奥さんが車で二人分のスーツケースを運ぶためにわざわざ来てくれた。こ
のご夫婦のお名前は聞きそびれてしまった。

Leipzig Host; Ki Sc/Ju Ni Date;Dec2nd(Mon)-4th(Wed)



ニコライ教会で会ったホストは髭もじゃの若い男性ユッカ。少し不安。近
くのクリスマスマーケットで立ち食いした後、男性に彼の出身地であるフィン
ランドの出店を見せて貰った後、疲れていたのもので早速ご自宅にトラムに乗
って連れて行って貰う。

ホスト宅は集合住宅の四階でエレベーターなし。出迎えたのは三人の家
族。中に入ると高い天井には Fresco 画。建付けは悪いものの広い寝室が
四部屋。築 100 年以上とのこと。これで若夫婦が払える賃料なのだろう。先
回に続き住宅事情の日本との格差を感じる。

ホスト夫婦は共稼ぎ。二人の姉妹は私達の孫と共に同年齢。しかも奥さんはお腹が大きい。その上、長女さん
は二週間前に落馬して腕を骨折。更に、IT 技術者である旦那さんは仕事のトラブルで明日早朝にミュンヘンに
発って水曜日まで帰れない。こんな状況でも私達を受け入れてくれたことを妻がお礼を言うと、奥さんは「だって
誰も来なかったらつまらない」との答え。

翌朝、奥さんも出勤しなければいけないので私達を集合地点まで送るために奥さんのご両親が見える。お父
さんが私達を送り、お母さんが末娘を見るところ。お父さんにトラムで集合地点まで送って貰う。

その夜の Telegraph での会食後、Ki さんに近くのトラム停車場まで送っていただき、彼女はバイクで来ている
のでトラムでの切符の買い方と何番目の停車場で降りるかを教えて貰ったがいざトラムに乗ったらまごまご。見か
ねた Ki さんが私達の傍にいた女性に大声で買い方を教えるように伝えてその女性に教わって無事買うことがで
きた。降車駅では Ki さんが先着。身重なのに自転車より速く走れるなんて凄い！



翌日は奥さんが出勤する前に早々と二人で駅に向かうことを伝えると流石に Ki さんはホ
ットとした様子。やはり少なからず負担をお掛けしていたと思うと申し訳ない。出発まで少し時
間があったので、すっかり妻に慣れた末娘の髪を妻が三つ編みにしてあげる。それを撮っ
た写真だけがご夫婦へのお礼だ。



駅で出迎えたホストはまたもや髭もじゃ。しかも今度はかなり高齢。でも目が優しい。会った瞬間に親しみを覚える不思議な人。彼は車を持っていないのでもう一人のホスト(こちら Pe)の車に四人分のスーツケースを運び入れる。今度も Ts,Ym 組と一緒に。妙にこの二人と縁がある。

それから六人で市庁舎や運河などを散策後、カフェへ(勿論、日本側支払い)。向かいに座った Pe の味わい深い顔をどこかで見た覚えがあるの

を思い出した、レオナルド・ダ・ヴィンチだ！

Pe さん一家は皆、ベジタリアンということだったが料理好きなロシア系の奥さんの作るご馳走はとて肉魚類抜きとは思えない濃厚で深い味わい。認識を新たに。告白すると私達は今までベジタリアントラベラーを敬遠していたが今後は態度を改めることにした。

Pe さん一家はステップファミリー。お互いの連れ子と二人に授かった 9 歳の女の子がいてここでは Pe さんからみて義理の息子、娘とも暮らしている。夜、ゆつくりと Pe さんと話す機会を持てた。昔は船乗りをしていて世界中を廻り、横浜でも根岸に滞在していたことがある。それだけでなく IT 関係など様々な仕事をした経験があつて子供たちには大学を卒業したら 80 万円相当のお金をポンと渡してこれで世界を見てこいと追い出すと言う。日本ではこんな生き方は出来ない。

翌朝、朝食中に義理の息子が帰宅した。夜勤明けだという。彼も Pe さんに貰った金で南米中をヒッチハイク旅行したそうだ。来年夏、日本を旅行する予定だと聞いたのでぜひ我が家に寄るように言っておいた。美術工芸博物館前に集合後の分散ツアーでは聖ペトリ教会から市庁舎そして聖ニコライ教会の廃墟を案内された。ここでは第二次世界大戦の空爆で直撃を受けたニコライ教会の尖塔だけが倒れずにそのまま今も焼け跡を壁に残しながら立っている姿が最も印象的だった。

昼食レストランで再び Pe と合流して聖ペトリ教会に戻った。この何百段もある尖塔を登ることを前の日に彼と約束していたのだ。流石にきつかったがこの日は冬には珍しい晴天。トップからの市内の景観は素晴らしかった。その後、バイエリアを歩き 100 年も前にハンブルグ港の下に掘ったという地下道を横断。工業立国としての当時のドイツの勢いを垣間見た。

そしてポットラックパーティ会場に一番乗り。パーティでは午前中ガイドをしてくれた赤いアノラックを着た男性(あとで Ha さんと知る)と親しく話し、来春に日本に来る予定だというので名刺を渡した。

三日目の朝、妻と相談して、3 泊もお世話になるので今夜は花火大会見物をパスしてご自宅のキッチンを借りてせめてものお礼として日本食を作ろうということに決める。そして Pe に案内されて行ったイーゼマルクトでねぎ、じゃがいも、ぶどう等の食材を購入。またここで小型のかぼちゃが確かに“Hokkaido”という名で店頭に並んでいるのを見た。

クルージング後に Pe と栈橋近くの駅で再会する手はずになっていたがその事を午後のガイド役の女性(Ha さんの奥さん)にちゃんと伝えていなくて少し余計な手間をかけてしまったのは申し訳なかった。

その夜のメニューはうどんにけんちん汁を予定しているので再会した Pe に日本の食材を買い足したいと伝えるといい食料品店を知っていると言って S バーンに乗る。そして食料品店に行く途中で役所のようなところに寄って私達に見せたのが今まで見たこともないエレベーター。

大人二人が乗れるだけの箱が観覧車のようにいくつも繋がっていてそれがぐるぐるとエレベータホールを縦回転している。利用者は動いている箱に飛び乗り手すりにつかまったまま上階に運ばれ目的の階まで行ったらそこで飛び降りる。その間、箱はノンストップ。スキーリフトに立ったまま乗っている要領だ。箱は最上階まで行くと横に並行移動。今度はまっすぐ下っていく。だから帰りはやはりこの下りの箱に飛び乗るのだ。ここに私と妻は一回ずつ乗って往復して見たが真っ暗な中、ぐらぐらと動く箱に一人乗るのはスリリングな体験だった。後で Pe から送付されたメールを見たら 2012 年に 80 代男性が転落死するなど安全性に問題があるのでは一般施設では使用禁止になっているとか。オイ！オイ！先に言って！

日本食料店のご主人も口八丁手八丁という感じの楽しい日本人だった。ここで味噌、うどん、醤油を調達。

妻がキッチンを借りて準備する間、Pe はパソコンに保存した膨大な写真の中から奥さんと娘三人で行った自転車旅行の写真を私に見せる。自転車の後ろに幌を被せた乳母車をつなぎそこに幼い娘を載せて二週間、ポーランドを往復したという。

Pe が日本サーバスの HP を開いたので私は関東支部 HP に載せたスペイン巡礼紀行文の写真を彼に見せることを思い付いた。ただテキスト中心なので Pe にはチンプンカンプン。辛うじて数少ない掲載写真を見せるにとどまった。支部の HP も近いうちに英語版が必要になるのかと思う。

最後の日も駅まで送って貰った。列車に乗り込む寸前、Pe が妻に小さな袋を手渡す。お餞別らしい。列車が動き、Pe に手を振る。また会えるだろうか？ 思わず涙ぐみそうになった。

Frankfurt Host; Le & Pe Ho-Oh Date; Dec 7th (Sat) - 9th (Mon)



フランクフルト中央駅で現地ホストに迎えられたあと、私達夫婦と Ot さん、Ym さんの四人はホストの Da と近距離列車に乗り換える。

ヨーロッパに来ていつも感じるのはたとえ大都会でもそこから一步出ると直ぐに田舎の風景が広がるということだ。都会と郊外がその間に何かくっきりと境界線を引いたように色分けされているように私には感じられる。ここフランクフルトも例外ではない。田園の中を電車は穏やかに進む。ICE とは違って私には懐かしかった。私達夫婦は横浜の郊外に住んでいるが我が町と横浜を結ぶローカル線、相鉄に乗っている気分の小一時間だった。

終点のフリードリヒスドルフ駅でホストである Le さんに迎えられ、今日はここで Da さんと同行の二人とはお別れ。私達は Le さんの運転する BMW

(！) でホスト宅に向かう。

ご自宅は細長い三階建て。ご主人(またもや Pe！)に紹介されたあと、室内を案内されて驚いた。リビングは優に 20 人位のパーティが出来そうなスペースに暖炉。私達に用意された寝室一室だけで日本の 3LDK 位のスペースがある。他にゲストルームが二室くらいあって他に旦那さんの仕事部屋らしきものが二室、馬鹿馬鹿しくなったのでトイレの数は数えなかった。翌日になって改めて住居ツアーをさせて貰って一階に室内プールを発見した。

Pe さんは忙しい中、四人分の昼食まで準備して下さっていた。食事の後、今度は Pe さんの運転で 40 分程先のビュンディグ村のクリスマスマーケットに向かう。到着した時には既に陽が落ちた後だったので全容が掴みにく

かったが日本に帰ってからネットで検索したら典型的なドイツの田舎の佇まい。市庁舎と教会を漆喰壁の民家が囲みさらに村全体を小川が包んでいる写真を見ることができた。夏にここを訪れたら一日中昼寝できそうだ。

そんな小さな村なのに周辺から訪れる車で道路は大渋滞。駐車場は満杯。このクリスマスマーケットは名物らしい。

ハンサムな歌手がステージで歌うドイツ民謡を聞いた後、例によって屋台で夕食。この日はドイツらしくソーセージとたっぷりのポテトを頬張った。

ご自宅に戻ってから明日の希望を聞かれたのでフランクフルトに戻るよりはこの田舎で過ごしたいと伝えるとご夫妻共、ホッとした様子だった。

翌朝、ダイニングに入るとPeさんが朝食の準備中。Leさんはプールでスイミング中だと言う。

昨日のうちに希望を伝えておいたのでお二人で今日の予定を考えて下さっていた。バート・ハイナウムというリゾート地まで行って公園の小山に登り景観を楽しんだ後、エッセンパークという所で古民家を見ようという計画だ。

出発前にご夫妻の職場を見せて戴いた。テニスコートも備えたジムだ。そこに隣接する子供用施設が圧巻だった。フロア一杯に40席はあろうかという食堂で本日開かれる誕生日パーティの準備が進み、隣にはジャングルジム、巨大な風船作りの恐竜モニュメント、スライダーが並びここなら一日中遊べる。

バート・ハイナウムではちょっとした登山気分で頂上に立ち、遠くフランクフルトの遠景を楽しんだ。

その後、体調のあまり良くないLeさんを自宅で下ろし、エッセンパークへ。ここは確かに古民家村だった。既に無人の3世紀は経っていると思われる民家が並びすべて室内も見学できる。広いパーク内を巡っているうちに小雨が降ってきたので引き上げることにしたら出口付近で歴史資料館があったのでそこに入ってみる。第二次世界大戦の記念館だった。戦後、この近くに東ドイツとの国境があり、その鉄条網と監視塔の写真を見る。館内には戦後、周囲の東ヨーロッパから逃れるドイツ人達の悲鳴の録音音声流れる。Peが父もチェコから逃れて来たと打ち明けた時は胸が塞がった。

帰宅したらLeさんが暖かいスープを用意してくれた。デュイスバーグで食べた味に似ていた。

夜はダイスゲームに誘われた。ダイス五個を転がして役を作って得点を争う単純なルールだが役を選ぶのに少し頭をひねるところがあつてコツをつかむと面白い。後で、ネットで検索したらヤッツィーというゲーム。日本に帰ったら探すことにする。2ゲームやったがどちらもホスト夫婦の勝利。こちらはアウェイだから仕方ない。「How much should we pay you?」と聞いたら二人は笑っていたがドイツの酒場の片隅では夜な夜な帳場が開かれているに違いない。

今回の旅で予想外だったのは雪を全く見なかった事。ドイツのクリスマスマーケットと言えば雪明りの中に浮かぶツリーと屋台という画像が浮かんでいたが、あれはコマーシャリズムに毒されていたのだろうか？聞けばやはりここ十年、ホワイトクリスマスを迎えたことはないと言う。地球温暖化は情緒ある風景まで奪う。

■東海北陸支部 Kn

<ライブチヒ>



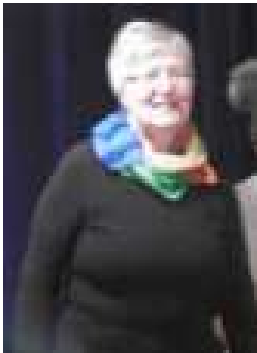
Jo Pr と Si のカップルの家にお世話になりました。2 日の夕方ライプチヒの駅で彼と会い、クリスマスマーケットを楽しんでから市電に 15 分乗り、彼の家に着きました。

いかにも東ドイツという面影を残した古い建物でしたが、中に入ると居間兼食堂の他に 3 ベッドルームがあり、住宅文化の豊かさを感じました。私たち 2 人にそれぞれ 14 畳ほどの広い部屋を用意してくれました。パートナーの Si はクリスマスに向けてクワイアの練習に行っていて、その夜は会えませんでした。彼も行く予定だったのに Servas 優先で、私たちの為にこの日は休んだのです。2 人は 30 才代後半？

翌3日彼は早朝 6 時に出勤でした。会社まで自転車で 1 時間以上掛かるとのことでした。彼女は 8 時出勤でその前に朝食を用意してくれました。西ドイツと東ドイツの経済格差を新聞等で読んでいましたが、肌で感じました。私たちはその後、預かった鍵を閉めて、市街観光に出掛けました。夜は一同集まったレストランに Jo が参加し、一緒に帰宅しました。Si も帰っていて、ゆっくり会えましたが彼女は英語を話さないで、彼を通しての会話でした。しかし彼女の優しさが十分伝わってきました。

最後の 4 日も彼は 6 時出勤。Si が朝食を用意してくれ、少し遅い出勤だからと、この朝は私たちの出発を見送ってくれました。精一杯忙しく働く中で私たちを受け入れしてくれたことに感謝でした。まさに Servas 精神・心意気を感じました。日本での再会を願っています。

<ハンブルク>



ホストして下さったのは Ha Ka さん。駅で出迎えてくれた Servas メンバーの中でもひととき体格の良い胸を張った彼女は、ドイツ女性の代表のような方でした。ハンブルグのお世話役でもありました。

駅からご自宅まで市電に乗っておよそ 20 分。彼女は一人で住んでいるピアノの先生でした。建物の 2 階に彼女の住まいがあり、1 部屋にはピアノとチェンバロが置いてありました。私たち 2 人の部屋は 12 畳くらいで窓からは木々や公園が見える落ち着いた空間でした。彼女の部屋とは間に食堂や浴室などをはさみ、かなり離れていて、気兼ねなく過ごすことができました。

朝食はパンとソーセージ、チーズのシンプルな、それでいて美味しい内容でした。2 日目の夜は Servas のポットラックパーティーがあり、彼女は人参サラダを持参しました。最後の夜は自宅でハンブルグの港町名物ラプスカウス(ポテト、コンビーフ、玉ねぎ一上に目玉焼き)を料理してくれました。浴室やトイレの使い方も具体的に指示してくれて、自分がホストする時の参考になりました。3 日目には、長い滞在のお礼の気持ちを伝えたくて彼女に花を買って帰りました。とても喜んでくれました。帰国後ガーベラの写真が届きました。“まだこんなに元気だよ”と添えられていました。

私はよく現地で花やワインを買ってプレゼントします。持参した土産以外にも気持ちを表す方法はあると思います。残念だったのは彼女のチェンバロでバッハが聴けなかったことです。夜もスケジュールがあり、彼女が疲れている様子で言い出せませんでした。出発前夜彼女用にカレースープを作り“パンで召し上がれ、疲れをとってね”と伝えました。



＜ルール地方＞ 彼らは Duisburg 駅から車で 40 分(アウトバーンの走行も含めて)の郊外の田園地帯に愛犬と共に暮らしている。妻の Ve さんは現役の英語教師、夫の Ha は現役を引退後、悠々自適の生活をする立派な体躯の愛妻家です。

彼らとのコンタクトは旅の始まる前、6/27 の「ドイツルール地方からのメール」から始まった。この地域のホストとして郊外でコリーと一緒に住んでいるカップルがいて案内を受けて、私はそのホスト宅での滞在を希望した。7/2 のメールで私達チームがこのホストに割り当て

られている事を知った。

その後のメールのやり取りで「日本料理に興味はありますか？私達と一緒に日本料理を作ることも考えています」の問いかけに「是非やってみたい」と返信があった。2 日目の自宅でのランチの時間に日本食を作る時間が取れそうという事がわかり、私はこの計画をすすめた。メニューは、太巻き寿司、裏巻き寿司、いなり寿司に決め、自宅で 2 回の試作を重ねた。

現地での 2 日目。この日は 15:45 の Hattingen での全員集合まで各自ホストファミリー宅でのフリータイムだった。十分に時間が有ったので朝食後、愛犬 Sam と Vera、私達の 2 人は霧の漂うルール地方の田園の中をゆっくりと散歩して、小川の流れる小さな路を歩いたりしてとても楽しい時間を過ごすことができた。

家に戻ってからは巻き寿司作りに取りかかる。まず鍋でご飯を炊く。特に裏巻き寿司は失敗しないように慎重にすすめる。試作のかいもあり、まあまあの出来上がりになった。もちろん Ve & Ha は喜んでくれて、たのしいランチになった。

SERVAS の旅では観光をする事より、ホストと一緒に過ごすことを重視しているので、この日の体験は忘れられない思い出になった。

＜フランクフルト＞



Ch は学校の先生、Ma は大学で秘書をしている。21 歳と 23 歳の娘さんがいるが今は別に住んでいて現在は 2 人暮らし。彼らの家は 3 階建ての 5 軒長屋(タウンハウス)でその中の 1 軒の 1 階から 3 階までが彼らの専有部分となる。20 年位前に建てたと言うがつい最近建てたような真新しさだ。メンテナンスがいいのだと思う。この家の内装は Ma の友人の父親(建築家)が手掛けたようで、5 軒それぞれの内部の作りと内装は違っているそうだ。1 階に廊下はなく螺旋階段が 3 階まで続いている。庭も付いて

いて中央にリンゴの樹が植えられている。この庭が見える 1 階のリビングダイニングは 20 畳位はありそうな広さだ。

私達は 2 名でステイさせて頂いたが 1 人 1 室を使わせてもらった。私の部屋は 3 階のいわゆる屋根裏部屋で屋根の傾斜が天井になっていた。しかし部屋は広い。

家の車は 1 台で、Ma と行動するときは車は使わず、最寄りの Uバーンの駅まで約 15 分、田舎の田園風景の畑の中の道を歩いた。彼らの家は 2 つの駅の間中間位の位置にあり、行きと帰りで別の駅を利用したので、2 つの違う道を歩くことができ、畑があり、池があり、林があつてこの道を歩いたことがとても楽しい記憶として残っている。

彼らは食事の量がとても少ないことに驚いた。ミュージアムのレストランではパン1つにコーヒーだけ。夕食でもスープとパンだけという具合。食べる量をこれだけと決めていてそれ以上や決められたもの以外は口にしないような意志が感じられた。

12/7に駅に迎えに来てくれたMaに「今日の午前中は忙しかったですか？」の質問に「午前中は自宅にドイツ語(あるいは英語?)を学びに来る人がいて忙しかった。」と言う。たぶん難民の人達に教えているものと思われる。「あなたは2つの仕事をしているんですね?」の問いに「そうですね。」と笑って答えた。

■近畿支部 Ss

この度の旅行に参加できましたこと、心より感謝いたします。

この旅行で私が1番学びたいと思いましたが、サーバスの受け入れがどの様になされているかを知るためでした。日頃から、主人は、できる精一杯をさせていただけばいいと申しております。どのホストの方々も、多少の違いはあっても、やっぱりそこに尽きるのだと、実感致しました。今回は、日中もアレンジしてくださっていて、特別だったと思います。

我が家にステイされた方々には、翌日のスケジュールをお聞きしてノープランと言われる方には、ご一緒致します。ご自分のプランのある方については、駅までの送迎をさせて頂いてきました。

気づいたことがありました。バスタオルはベッドに用意しておく事と、就寝時にお水とコップを用意してくださっていた事、参考になりました。

最後のホストは、大変お忙しい方でしたが、受け入れて頂いただけでも有難いと思いました。相手の立場になって考え行動することの大切さを痛感したこの度の旅でもありました。

<ハンブルクのホスト宅で>



■九州支部 Ty

日本サーバスの5支部から10名がドイツの4都市、ルール地方、ライプチヒ、ハンブルク、フランクフルトを訪れそれぞれの家庭でサーバスステイをしました。

11月29日にフランクフルト中央駅前の「The Frankfurt」に集合。一緒に旅をする方たちと顔合わせ。翌日30日に最初の地、ルール地方へ8名はDuisburgで下車。Essenで1名、最後Bochumで1名下車しました。

11月30日～12月2日 ルール地方 Essen 1人でステイ



ホスト ChさんとSiさん定年退職したご夫婦。静かな住宅街にお住まいです。着いた日の夕方にMulheimに私たち全員、ホスト、関係者が集まり一緒にクリスマスマーケットを楽しみ、夜のパーティでは九州支部の活動について話しました。次の日はホストと近くの森を散策したり、教会の日曜礼拝に連れて行ってもらい、全く分からないドイツ語のお説教を音楽を聴くように聞いていました。その間何度もコーラスが入り、両脇のご夫婦に合わ

せて歌い、もともと歌が好きなのでとても楽しかったです。一人娘さんの Anさんはボンで都市計画の勉強をされていて里帰り中で、笑顔の素敵なお嬢さんです。

家族皆と近場でクリスマスマーケットに行き、ご夫婦は行った先々でいろいろな方と立ち話、ご近所の方との関係が密だなと思いました。家や庭にはアフリカの置物や飾りがいっぱい、昔3年間ジンバブエに住んでいた事があるそうです。原発の話や、環境問題、Brexitの話には精いっぱい付いていきましたが、まだまだ英語や知識の不足を思い知らされました。この日は寒く翌朝は車全体が凍っていました。

12月4日～12月7日 Hamburg 1人でステイ



ホスト Maさん、Haさんご夫妻。退職前はMaさんは高校のスペイン語と地理の先生。Haさんはスペイン語と歴史の先生。この方たちも本当にいい方でした。私のしたい事を少しでも叶えてあげようといろいろしてくださいました。私が買いたい花や野菜の種があるかどうか電話で問い合わせさせて下さり、トルコ人用のスーパーや、アフガニスタンのパン屋さん、古着屋さんなど連れて行ってくださいました。台所の前が大きな共同の庭でリスが何匹か可愛らしく枝から枝に飛び移る姿はとてもいい光景でした。

家の近く(Winterhude)を歩いていると、石畳の中に何かが書いてある四角い金属プレートを所々目にしました。それは「つまづき石」と言われ、芸術家の1人がナチス時代の記録を元に、強制収容所に連れて行かれた人々の名前をプレートに移し、その人が住んでいた家の前の道に埋め込んだものです。刻まれている名前はユダヤ人だけでなく、同性愛者や反ナチス的な意見を持った人も含まれているそうです。過去を振りかえさせるつまづき石です。

2日目はHaさんが94歳のお母さんの介護を担当する日で、朝早く妹さん宅に出かけました。Haさんの祖母が中国人なので、ご自分は25%が中国人で中国名を持っているそうです。お母さんの足を洗ってあげたり、お話し相手になったりと親孝行な息子さんです。お母さんが時折、「あれが無くなった。これが無くなった」と言って周りを困らせるそうです。こういう話って万国共通ですね。

住んでいるマンションにはいろんな世帯の人がいて、病気の一人暮らしの人には差し入れをしたり、子供さんが老人世帯に遊びに行ったり、長期間留守のお宅のカギを預かったり、年に何回か一緒にお食事をしたりと、ご近所とのふれ合いがあるそうで羨ましい気もしました。ご夫婦ともサーバスのお陰で世界が広がったと言われていました。

12月7日～12月9日 フランクフルト Tfさん(福岡)と二人でステイ

Maさん Roさん 40代後半のご夫妻。子どもさんは3人(15歳の男の子と13歳、11歳の女の子)。家はオープンで男の子の友達が2人遊びに来ていて、それにサーバスジュニアでフランスの13歳の女の子もいて最



初日の夕食は何と10人でテーブルを囲みました。ご夫妻が出かけている間、子供たちと私たちがその日の夕食のクレープを焼きました。クレープの上に玉子とチーズをのせ折りたたんで保温をします。玉子が程良く半熟になり美味しかったです。後はクレープに好きなチーズやハムや野菜をのせ自分流に作ります。

2日目の夕食は私たちが食材を調達し、手巻き寿司と焼きそばを作ることになりました。寿司用のお米や海苔も手に入り、皆で協力し美

味しい夕食が出来上がりました。

嬉しかったのは、男の子たちが(この日はまた別の友達)「美味しい」「レストランより美味しい」と言っていっぱい食べてくれた事です。家の前には広い空間が広がり、庭にはにわとりやウサギを飼っているのんびりした私の憧れの暮らしです。

どのご家庭でもグリューワイン(温かいワイン)をご馳走になり、またクリスマスマーケットでも飲んだりしました。温まり美味しいので、今度買ってみようと思います。

ドイツ訪問のプロジェクトはドイツ、日本両方にとっても大きなプロジェクトだったと思います。ドイツのCo会長と、Otさんには大変お世話になりました。長い期間に亘って計画され、受け入れ先を探し、各地での案内、食事などいろいろ気を配っていただきました。最後の日にはDaさん宅でのクッキー作り。美味しい高級なクッキーをいっぱいお土産として持たせて下さいました。

お会いしたドイツ、日本のすべての方々に本当にお世話になりました。1人1人の顔を思い出すとなんだか胸が熱くなります。充実した思い出いっぱいの旅でした。

■九州支部 Tf

1 ルール地方のボーfum:Moさん

サーバス会員になって2年目、初めての旅行です。一人でボーfumという、ルール地方のホスト宅に二泊しました。凍えるような寒さの中でホストのMoさんに会いました。背の高い方でした。メールの印象とは違う方で、人の想像力ってあてにならないなと思いました。クリスマスマーケットをのぞきながら、20分歩いて家に到着しました。途中、町の事、ルール地方の事などを話してくれました。失業率10パーセント、ドイツ全体では5パーセントで、昔地理で習った時の内容とは数十年たって変化しています。私の住む町も昔は炭鉱があって、同じような地域のように親近感がありました。行く前から興味があったので、いろいろ聞きました。

家は集合住宅で、2階が住居、パートナーがスーツケースを運びに来てくれました。とてもいい感じのカップルです。

最初とても緊張していましたが、だんだん細やかな心遣いでもてなしていただき、少しずつなじんできました。温かい料理が準備してあり、説明を聞きながらいただきました。どの部屋もとてもセンスが良く、クリスマスにちなんだ飾りつけが素敵でした。





初めて英語漬けの生活で、必死になって話をしました。日常の生活に関してはもちろん、政治や地方の産業など、パートナーが発電所勤務だったこともあり、エネルギーの話など盛りだくさんでした。ドイツの人たちは話し好き、コミュニケーションを楽しんでいるという印象が強かったです。

Moさんは非常に思い遣りのある人で、言葉の端々から人柄の良さがにじみ出てきます。二人はとても相手を大切にして、協力して生活していると思いました。彼女のところに滞在出来てラッキーでした。また、季節のいい時にハイキングにいらっしやいと言っていたとき、本当に機会を作ってまた行きたいと切に思いました。

2 ライプチヒの Ch、Ha 夫妻と息子

列車を乗り継ぎ、ライプチヒに到着しました。4 時頃でしたが、外は暗く寒かったです。駅の中でホストの方たちと顔合わせをし、クリスマスマーケットを見て、屋台で食べ物を買って三々五々ホストと歩くという算段でした。マーケットは人が多く迷子になりそうだから、フィンランドテントの焚火を囲んで、グリューワインをご馳走になりました。

トラムに乗って早々に家に引き揚げ、居間でまたグリューワインと Ch さんお手製のクッキーをいただきながら、息子さんも加わり話をしました。クリスマスの飾りやアドヴェントカレンダー、ろうそくなど、クリスマスは大事な行事のようで、その説明や家族がやっていること、その他いろんな話をしました。Ch の英語は素晴らしく、そしてとても早口でした。家族全員英語でどんどん話すのですが、Ch が一番でした。家族の中心にお母さんがいるといった感じでした。2 日目の晩も、今度はビールを飲みながら話をしました。Ha は裁判官で、担当をする案件を決めるのに選挙があったとか。民主的な組織なのだなと思いました。

家に入るときに会った隣人は、東ドイツ出身で、兵役拒否をしたり、自由を求める運動をしたり、彼についてのエピソードを聞いて旧東ドイツに來ているんだと自覚しました。とても興味深かったです。気取らないおもてなしで、洗面所もタオルも自由に使っていていいし、洗濯機も使っていていいよと言われ、また、何時でも困ったことがあったら言ってくださいと言われました。おおらかだなと思いました。

朝ごはんは、かごに山盛りのパン！おいしそうなのがてんこ盛りで、ジャムは自家製、あとはソーセージ、パテ、チーズなどなど。朝は料理しないと言われましたが、素晴らしい朝食でした。お昼にサンドイッチを作って行ったらと促され、遠慮なく 2 日も作って行きました。

音楽で有名なライプチヒにただの観光目的ではなく、一般のお宅に滞在して、また、地域の人々が仲良く暮らすために人々がいろいろ努力しているという話は初耳で、今、個々がばらばらになっている日本のことを思いました。

3 ハンブルクの Ka と Pe 夫妻

ドムトア駅で降り、ホストの Ka と会いました。今回は一人で滞在です。バスの運転手さんから券を買って乗車。この国では、バスや鉄道、トラムなど近距離は改札も車掌もいないけれど、みんな不正をしないようです。Ka たちの家は、やはり集合住宅の 2 階。ドイツ滞在 3 軒目ですが、どこも必ず玄関で靴を脱ぎ、部屋履きに履き替えます。コート、マフラーは玄関のコート掛けにかけて部屋に入ります、このお宅はあまり飾りはなく、クリスマ



スのろうそくだけでした。娘は 28 歳で近所にボーイフレンドと住んで、キャリアアップの勉強と仕事とを両立しているそうです。

どうしてクリスマスマーケットなんかに来たの？ コマーシャリズムそのものでしょう？ と何度も聞かれました。それにこんなに寒い時にも。寒さが耐えられないそうです。確かにどこのお店も同じようなものばかりです。

夫の Pe はジャーナリストでもう引退しています。Ka は障害児の教育にかかわっていて、今はパートタイムで働いています。二人はベジタリアンで、Pe がとてもおいしい料理を作ってくれます。朝はたっぷりのミューズリーとたっぷりの果物でした。平均的ドイツ人の朝食なんてものはないのだと思いました。どのくらい前からベジタリアンなのか聞くと、2 日にわたっていろんな経緯を話してくれました。まずは、若い時にアルゼンチンを旅行して 3 食牛肉だったこと、ここから南米冒険旅行の話で食の話は冒険談に代わりました。

Ka も 20 代でシベリア経由して日本に入り、韓国、台湾、香港、フィリピンを 2 年くらいかけて旅行しています。フィリピンでは仕事もしていたらしいです。

3 泊目の夜、食物偽装やいろいろな問題が次から次へと発覚してもう肉は食べないことにしたと言っていました。3 日滞在したのでたくさん話ができて、面白い話がたくさん聞けました。Ka は週一でピアノのレッスンを受け、今はベートーベンを弾いています。また、Pe とダンスクラブに所属していて、週一でダンスに行き、心豊かな生活送っているようでした。Pe は家事が得意で、助け合って生活している様子がよくわかり、本当にほほえましく思いました。

■トラベラー会員 Ym

準備段階の早い時から、ルール地方のホスト側の Paさんからメールを頂き、途中間が空いたものの、間近には猫の事やご主人の版画の先生は日本人だの、私が行きたかった美術館に日曜日に一緒に行きましょと言ってもらい、私は嬉しくて嬉しくて本当に楽しみにしていました。

ところが、直前に Pa さんのお熱でホストが変更！そこから、ぶっつけ本番ホームステイの旅が始まりました。

さて、11 月 29 日の夜各グループごとにフランクフルトのフランクフルトホテルに集まり、一晩泊まり翌朝よりルール地方に向かって、列車の旅が始まりました。

急きょホスト先が変更になった Tsさんと私は、K 夫妻とご一緒に、ルール地方のコーディネーターをされている、Cl アさんと He さんのお宅にお世話になりました。

He さんは背も高く、声も大きく朗らかで、移り行くルール地方をよく見てほしいと言う、思いのある方でした。

He さんの家はデュイスブルクの駅から車で住宅街に入った所でしたが、ミュールハイムまで、歩いて行きました。そこは素敵な散歩コースで大きな川を渡った時は本当に絵になる様な景色もありました。

ミュールハイムは川に舟があり、舟が電球で飾られていてきれいでした。そこで歩いてクリスマスマーケットを見て、食べたあと、皆で集まって、お菓子とか食べながらお話ができる部屋が設けられ、たまたま私達のテーブルには、若い日本の女性と優しいドイツ人のカップルが座ってくれ、ドイツの現状や事情が聞けたのが、楽しかったです！

翌 12 月 1 日、ゆつくり朝食を食べた後、デュイスブルクにあるレームブルック美術館に、K 夫妻と私達、4 人で行きました。He さんが送り迎えしてくださり、お迎えが 1 時という事だったので、あまり見る時間なく飛ぶようにモダンな美術館を駆けずり回り、素敵なお店で飲み込む様に食べつくし、時間に間に合わせました。

その日は、トラムに乗って駅まで行き、皆さんと待ち合わせ、列車に乗り違う街のクリスマスマーケットに連れて行って頂きました。

暗くなるにつれ、人が増え、ほのぼのとした劇を見て、皆で食事。ホストの皆さんの温かさが伝わる 2 日間でした。

翌 2 日は、ライプチヒに移動です。Cl さんは列車で食べるようにと、ピザを用意してくれました。デュイスブルクの駅で大きく手を振ってくれた、Cl さんや He さんに感謝です！

ライプチヒ。ST さんと



ライプチヒのニコライ教会で、ホストの St さんと An さんに会い、ホットワインを飲み、クリスマスマーケットを見てアパートに帰りました。St さんの家では、二人別々の部屋でしたが、Ts さんの部屋から、体操の写真やメダルが何個も掛けてあり、話を聞きに行くと、何と 1980 年モスクワオリンピックの跳馬の銀メダリスト！オ〜〜〜！！ですね！実は私の娘も 7 才から 20 才まで器械体操をやっており、今は子供たちに教えています。また孫娘たちも体操をやっていて、St さんは神様みたいですね。

翌日の午前中は英語でのガイドツアー。14 時から 18 時半まで自由行動だったので、Ts さん、Ss さん、私の 3 人はライプチヒ造形美術館に行き、14 時から 18 時まで十分堪能しました。

皆で食事の後また一緒に帰り、基本練習とか色々教えてもらい、本当に奇跡の様なステイでした。

翌日 4 日ハンブルクに移動。ホストの Pe さんに昼過ぎに会いました。もう一人の K 夫妻のホストの Pe さんと一緒に(K 夫妻にはご縁があります)、ハンブルクの街を歩き、お茶を飲んで別れました。Pe さんの家は車で 45 分位かかり、Volksdorf というちょっと遠いところにお住いでした。

少し年配で、お一人で何でもされるのですが(週一お掃除に来てもらう)、家の中はどこまでもセンス良く、きれいに片付いていることに感心しました。日本に帰ったらあなたの様にきれいにします。といいましたが、全く実行されていません。

12 月 6 日自由行動の時に、Ts さんと 2 人ハンブルク美術館に行きました。時間は少なかったですが、Ma さんが連れて行ってくれました。

その後の、ザンクトパウリのドムまでは人に聞きながら、二人でたどり着きました。夜間の遊園地は刺激的？？に、にぎやかでした。

翌日、ハンブルクからフランクフルトまでの列車はとても混んでいて、席が予約されてなければ、荷物はあんな大変でした。ドイツでは予約されてなければ、誰でも座って良く、予約席の上にハンブルクからフランクフルトなど小さくライトが付きます。この体験は、その後 Da Fo さんがドイツの鉄道は混んでいたとニュースになり、ドイツの鉄道事情が紹介されていたので、面白かったです！

フランクフルトでは Ot さんと一緒に、Da さんには本当に暖かく迎えて頂きました。ここでも、皆さんとシュテーデル美術館に行く事ができ、私は4つの地域それぞれの美術館に行くことができました。4ヶ所はとてもいけないだろうと思っていたので、Ts さんや皆さまに感謝！

ドイツのお家はどこも、とてもきれいに片付いていて素敵でした。ホストの皆さんだけでなく、ご参加の皆さんの素晴らしさにも心うたれ、すごいカルチャーショックを感じています。

知らない者同士が、出会ってお別れする。笑顔で迎えられ、感謝の気持ちでお別れをする！4回！みんな違っていても、暖かいものが流れていて、思い出しても本当に素晴らしいなあと思います。

＜フランクフルト。Da 宅で。
帰国前のひととき＞



終わり